



秋田大学広報誌 〈アプリーレ〉

Aprire

No. 61
2018



〈特集〉 学生第一

英語教育

●イングリッシュマラソン

秋田大学では、全学部対象に、覚悟を決めた仲間(30名程度)と「一年間、英語マラソンを完走しよう」を合言葉にイングリッシュマラソンを平成29年度から開始しています。マラソンといっても走るわけではなく、最初の活動は、1泊2日のイングリッシュキャンプになります。2日間、様々な活動を行います。言語は英語のみ。ご飯の時もお風呂の時も全て英語です。そこで知り合いになった仲間と、次はグループ5~6名に分かれて、班長を中心に「マラソン」を開始します。前期は、基礎力養成期間として位置づけ、週3回ALL ROOMSに通い、さらに自分の空いている時間には計4万語の多読(英語読書)とオンラインTOEIC語彙学習を行います。各グループには、アドバイザーとしてアメリカ人教員がついて、適宜マラソンのヘルプをしてくれます。9月にはマレーシアにあるマラヤ大学に2週間短期留学します。その成果をさらに生かすために、後期は、引き続き4万語を読むことと、10月~11月にかけてTOEIC講座を受講し、点数として目に見える成果を目指します。単語の習得、毎週の学習など、班単位で取り組み、小テストも班単位で受験します。最後は仕上げのTOEICを受験し、一年間のマラソンを終了します。平成29年度の全体の伸びは、平均で500点前半から600点台後半へ、最高点は885点、最大で300点の伸びを記録したランナーもいました。

●ALL ROOMS

「英語を話したいけど、どうしたらいいのかなあ、留学したいけど、何も分からない」こんな疑問を持っていたらすぐにALL ROOMSへ。秋田大学には、ALL ROOMS(Autonomous Language Learning Rooms)という不思議な英語の空間があります。一番の不思議は、「一年間通い続けると英語が話せるようになる」ということです。少しだけ紹介すると、ALL ROOMSは学生スタッフと教員が運営する空間で、なんとといっても皆さんのサポート役の学生スタッフが優秀です。TOEICで最高970点をたたきだす秋大の英語エリート集団ですが、同時に、その人間性も魅力です。抜群のコミュニケーション力を持つスタッフ、話をしっかり聞いて親身なアドバイスしてくれるスタッフ、毎日来なくなるような明るさとスマイルのスタッフ、不思議と癒されるスタッフ、そんな彼らが英語に関する悩みから学生生活に関する相談まで全て「英語」でサポートしてくれます。また、皆さんがALL ROOMSに来やすくなるように、時期に合わせてイベントを開催し、春には花見、秋にはハロウィン、ランチタイムも、皆さんで英会話をしながら昼食など、毎年延べ1500人以上を引きつける秘密の空間です。



学業や課外活動を表彰

秋田大学では、秋田大学みらい創造基金(※)の事業として、学生の勉学意欲を向上させるため、成績優秀者に学業奨励金の給付を行うとともに、表彰を行っています。給付金額は一人当たり10万円となり、毎年度全学部で15名の学生を表彰しています。



また、学術研究活動において顕著な業績を挙げた学生、課外活動において顕著な成績を挙げた学生、社会活動において社会的に高い評価を受けた学生に該当する場合には、これを表彰する制度があります。平成29年度は学術研究活動において14名、課外活動において12名1団体、社会活動において1名の学生が表彰を受けています。

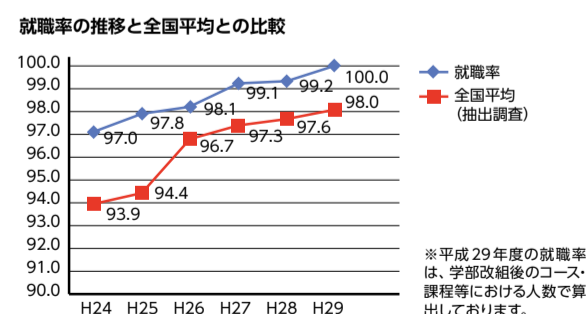
※秋田大学みらい創造基金→秋田大学における学生支援及び教育研究活動等に資することを目的として個人及び法人の皆様からいただいた寄附を基にした基金

充実した就職支援

秋田大学では、学生が将来、有意義な人生を過ごすように、入学直後から卒業までの間、絶え間なくキャリア形成支援を行っています。なかでも就職は、将来の人生を方向づける重要なランドマークになります。そのため本学では、様々な就職支援活動を実施していますが、特に学生個別の就職指導に力を入れ、経験豊富な職員が、進路相談から履歴書・エントリーシートなどの提出書類の添削、集団・個別の面接試験対策やグループディスカッションの練習等を行っています。また、随時大学に届く求人や説明会開催案内、地域就活イベントなど就職情報を自由にご覧いただけます。

これらの成果が奏功して、本学では全国平均を上回る高い就職率を誇っているほか、平成29年度に日本経済新聞社と日経HRが上場企業等を対象に実施した大学イメージ調査において、秋田大学が「採用を増やしたい大学」第1位にランキングされました。

(出典「日経キャリアマガジン特別編集 価値ある大学 2018年版」(2017年6月7日発行/株式会社日経HR))



秋田大学は、 学生のことを考える 「学生第一」の大学です。

特集

「学生第一」

秋田大学では、すべての教職員が「学生第一」をモットーに、学生のみなさん一人ひとりに寄り添いながら、手厚く親身になって様々なサポートを行っています。学生のみなさんの普段の生活や、学習・研究、課外活動、就職活動など大学生活における多様な場面において、自主自立を尊重しながら、適時適切な支援を実施します。



学生生活を幅広く支援

秋田大学では、学生のみなさんが快適な学生生活を送れるよう経済的支援や健康面でのサポートのほか、修学上の支援や配慮等、様々な面でサポートを行っています。経済的理由により入学料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合や、入学前1年以内に学費負担者の死亡または風水害等の被災により、入学料の納付が困難である場合については、本人の申請に基づき選考の上、入学料の全額または半額を免除もしくは徴収を猶予する制度があります。

また、経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合や、学費負担者の死亡または風水害等の被災により、授業料の納付が困難である場合については、本人の申請に基づき選考の上、授業料の全額、半額または3分の1を免除する制度があります。

さらに、入学料免除対象者である学部新生に向けて、今年度新たに設置した秋田大学新生学費奨励金制度もあります。この奨励金は秋田大学独自のものであり、給付金額は一人当たり10万円となっています。(ただし、入学料免除許可者は5万円)

健康面でサポートするための施設として保健管理センターがあり、医師と看護師が常駐しています。身体の調子が悪いときや、心配事があるときなど診察やカウンセリングを無料で受けることができます。

また、保健管理センター内の学生相談所では、学生生活全般にわたる心の相談・健康相談に応じています。電話・FAX・電子メールでの相談も受け付けています。学生サポートルームは、障害による修学上の支援・配慮が必要な学生や、障害に限らず様々な理由から学生生活に困難を感じている学生のための相談窓口であり、専任のスタッフが常駐して相談に応じています。

学生自主プロジェクト

●自由な発想を支援 地域密着型

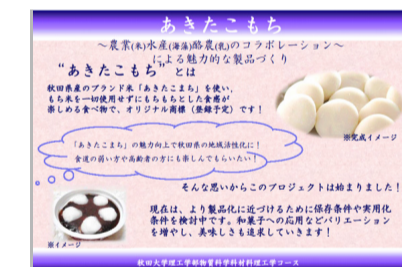
地方創生センターでは、地域課題の解決を目指して自主的に行う活動を支援しています。私たちの暮らす秋田県には25の市町村があります。人口減少や少子化、高齢化など県内全てに共通した課題もあれば、観光資源や特産物の活用など、地域固有の課題も多く存在します。まずはこういった様々な地域の課題を現実として理解することが必要になりますが、それらを踏まえ、「どうしたら地域が元気になるか」を学生ならではの自由な発想、柔軟な企画力・行動力をもって実践してほしいという願いも込められています。地域課題の解決には「これが答えだ」というものはありません。本学の取り組みも「課題の解決」が活動目標ではありませんが、「解決」を評価することよりも「解決に向けてプロジェクトを推進すること(四苦八苦する過程)」を重要視しています。学生自主プロジェクトの活動を通じて、地域を意識し、地域に触れ、その地域の理解を深めていくことで、地域の方々と表面的ではない「心の通った交流」が生まれます。



●シーズプッシュ PBL ものづくり型

ものづくり創造工学センターでは、学生の自主的な活動を促すシーズプッシュ型のPBL(Project Based Learning)を実施しています。シーズとは英語のseedsで、研究の種という意味です。学生が自ら考えたシーズを世の中にプッシュしていくためのプロジェクトの手伝いをセンターが行っています。例えば、センターが予算や工作機械などを提供しますが、実際に成果としてシーズを実現させて行くのは学生自身です。シーズを実現させて行く過程にはいろいろな難しい問題や課題が立ちはだかっていることが予想されます。それらの課題を一つずつ、学生自らの手でクリアしていくことが求められます。このような課題解決型の実践活動を通じた学びの過程をPBLといえます。

学生のシーズを学生自らの手で実現していくシーズプッシュ型の学生自主プロジェクトで、苦労して得られた成果について、今年からは世の中にアピールすることを強く促しています。ボランティアなどの社会貢献活動に協力したり、企業との共同研究に発展したり、あるいは秋田大学のオリジナル商品としてビジネスに繋げるなど、自らのシーズから生まれた成果を世の中にどんどん売り込んでほしいと願っています。



秋田大学オリジナル商品の一例

学生相談窓口について

名称	場所	開設日	担当者	連絡先
学生相談所	保健管理センター	月曜~金曜 9:00~17:00	医師・看護師、精神保健福祉士、臨床心理士	TEL:018-889-2955 hoken@gipc.akita-u.ac.jp
よろず相談室「おざってたんせ」	学生支援総合センター	月曜~金曜 9:00~17:00	学生支援担当職員	TEL:018-889-2265 sodan@jimu.akita-u.ac.jp
就職相談所	学生支援総合センター	月曜~金曜 8:30~17:00	就職推進担当職員	TEL:018-889-2262 sj01@jimu.akita-u.ac.jp
学生サポートルーム	学生支援総合センター	月曜~金曜 9:00~17:00	学生特別支援コーディネーター	TEL:018-889-3142 s-room1@jimu.akita-u.ac.jp
学生なんでも相談室	理工学部1号館 2階202室	毎週金曜 11:00~15:00	学生相談員(学務担当)	TEL:018-889-2312 soudan-kogakushigen@docomo.ne.jp
ハラスメント対策室	不定	随時	ハラスメント相談員	TEL:018-889-2211・2212 htaisaku@jimu.akita-u.ac.jp

教員

紹介

教育文化学部

近現代の中国文学から読み解く、日中関係と中国人の思い



地域文化学科 国際文化コース

羽田 朝子 准教授

文学に投影された、女性中国人作家 梅娘の葛藤

●満州国から日本に来た梅娘が感じた思い
中国や台湾の可愛らしい民芸品やパンダグッズが並ぶ羽田准教授の研究室。中国文化のイメージをわかりやすく学生に伝えるためだと言います。中国の政治や経済発展についてはニュースでよく見聞きしますが、その長い歴史における文化の変遷についてはあまり触れる機会がありません。しかし、日本と中国は古くから文化的に深い関わりをもっており、多くの日本文化の起源は中国にあり、日本は古くから中国の文化を追いかけ、取り入れてきました。また近代以降は、日本がアジアでいち早く近

代化を実現したこと、多様な文化的影響を中国に及ぼすことになりました。文学もそのひとつです。羽田准教授はとくに近代の中国文学を専門とし、特に満州国の女性中国人作家「梅娘(メイニャン)」の日本語読み(バイジョウ)の文学を取り上げ、考察しています。満州国は、満州事変(1931年)のあと中国東北部を占領した日本が建国した傀儡国家でしたが1945年日本の第二次世界大戦敗戦により消滅しました。

1938(41年)、梅娘は編集者である夫の転勤がきっかけで日本に3年程滞り、夫が編集する雑誌を中心に活躍しました。在日中は兵庫県西宮市に住み、関西の若手中国人作家集団と文学サロンを作り、読書会を開き交流を深めていたと言います。



昭和初期だった当時の日本、学校教育が普及し、女性に対しても良妻賢母思想を基礎とした近代教育が施されていきました。同じころ中国は、女子教育があまり進んでおらず、富裕層しか学校に行けなかった時代でした。

日中関係に翻弄された人生

羽田准教授は大学院生の頃、梅娘本人に当時の様子やインタビューしたことが、現在も梅娘の研究を続けている理由のひとつであると話します。「私が実際に梅娘に会った時、彼女はいったく代りた。日本にいた時のことやお話がかがったところ、日本人女性の教養の高さが印象的だったと話していました。戦後、中国が共産党政権になつてからは、戦前日本と関わりを持った梅娘はかなり批判を受けました。

葛藤や鬱屈のなかで生まれる文学こそ面白い

7世紀初頭から始まった遣唐使や遣唐使は、日本人が先進文化や技術を求めて海を渡り、中国の文化を持ち帰ったという形で、その頃の日本は中国にとってそれほど大きな存在ではなかった。中国が日本の影響を受けたという話はあまりありません。しかし近代になるとその立場は逆転し、近代化が進む日本を中国留学生が訪れ、西洋文化を吸収して帰るといふ流れが生まれました。その時は、中国にとって日本は、中国に比べて大きく変わっています。その中で中国人たちのように感じるような影響を受けてきたのかと興味をもちました。羽田准教授は「その時の中国人の気持ち、すこく複雑だったと思



います。世界の中心にいた自分たちが衰退していくことに対する危機感、焦燥感などが入り混じった感情だったでしょう。そうしたなかで抱いた葛藤や鬱屈があらわに表現された文学が、とても面白いのです。そして彼らによって日本はどのように捉えられてきたのか、ということに対して興味を持ちました。もちろん当時の作品のなかには日本に対する反感や日本によって与えられた苦悩が描かれていることも多く、日本人としては読んでいて胸が苦しくなったりすることもありますが、そういうものも含めて「日本」を理解しないと、本当に理解しているとは思えません」

感受性が鋭い 若いうちに、いろいろな文化に触れましょう

昨今の中国は経済的な発展が著しく、日本経済も中国経済の影響をダイレクトに受ける時代になってきています。秋田になつてくると、中国の経済状況は無視できません。「日本の様々な分野において、中国に通じた人材が求められています。歴史

「その頃に感じたインパクトは、その後の私の人生を変えてくれた大きなもの」

「その頃に感じたインパクトは、その後の私の人生を変えてくれた大きなもの」が魅力あるものだったという方もありますが、私自身が若く感受性が鋭い時期だったという点も大きかったと思います。しかし大人になるにつれ、こうした感受性は薄れがちです。若い時代は宝です。感受性が豊かな今のうちに色々なものに触れてみてくだい。そして様々な文化に触れることを通じて、この世界は決して自分たちの基準だけでは捉えきれないものではないことを体感してください」

「教育文化学部には今年から国際文化コースが設置され、日本やアジア(中国・台湾・朝鮮)はもとろ、フランス、ドイツ、イタリア、幅広い文化の授業を開設しています。世界の文化を幅広く学びたい方は、ぜひ秋田大学の国際文化コースへお待ちしております」

秋田大学教育文化学部 大学院教育学研究科ホームページ <http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/index.html>
●秋田大学研究者特設サイト「Lab Interview」で、インタビューの詳細や学生の声を掲載していますので、ご覧ください。 <http://www.akita-u.ac.jp/honbu/lab/>

国際資源学部

乾燥地帯や中東での統合的な資源管理を目指す



大学院国際資源学研究科 資源開発環境学専攻

縄田 浩志 教授

限られた資源を分かち合い、共に生きる知恵

●砂漠におけるラクダと人間の相利共生関係
写真は、縄田教授が訪れたスーダン東部の紅海沿岸に暮らすラクダと1枚。砂漠の代名詞でもあるラクダは、水も緑も限られた砂漠で生きるために、独自の進化を遂げてきました。例えば、人間は海水を飲むことはできませんが、ラクダは塩分濃度55%もの塩辛い水でも飲むことができます。そのラクダのミルクの半分は子のラクダに与えられ、残り半分を人間が分けてもらいます。そのため、縄田教授はラクダを「天然の海水淡水化プラント」と例えます。代わりに人間はラクダが届かない深さにあ



る地下水を汲み、ラクダに分け与えます。そして共にサンゴ礁のある島へ渡り、ラクダはワシやクロウエサとして、人間は巻貝や

流木を採取し、限られた鳥の資源を有効活用するのです。また苛酷で不安定な環境を生き抜くには、ラクダだけに依存せずウシやヤギなどの土地の環境に合った複数の種の家畜を同時に飼うという点も重要だと言います。貴重な緑が茂るオアシスでは、ナツメヤシという樹木の品種改良が重ねられ、病害虫や干ばつを乗り越え、何千年もかけてその分布域を拡大してきました。砂漠を生きる人間と動物

植物は、お互い助け合い、資源を分け合うことで共生しているのです。●現地の漁業者の視点で、ジユゴンを守る
日本では沖縄の一部に生息するジユゴンも、中東では身近な動物です。しかし浅瀬で暮らすジユゴンは、漁業者と接触する可能性が非常に高いと言います。船体がジユゴンを傷つけてしまったり、エンジン音が音に敏感なジユゴンにストレスを与えてしまします。意図しないアクシデントでジユゴンが網にかかってしまう時もあります。この場合、漁業者の生活とジユゴン、両方を守る事が重要だと縄田教授は言います。

「人間と動物の共生を考える時は、地元に住んでいる人の視点を大切にしています。動物の保護ばかりを注視して地元に住む人たちの生活をなおざりにすることは、避けなければなりません。そこで長く暮らしたきた人たち、はたかさんの知恵をもとに、試行錯誤し、時には失敗もあつたでしょう。その歴史を把握し、ジユゴンの生態、漁業との兼ね合い、村の生活を10年かけて他大学の先生方と共同で調べた科学的な情報と、自然保護区管理の具体策として活かす活動をしていいます」

縄田教授の研究は、単にひとつの生物を研究するのではなく、人間との関わりを含めた多様な側面に注目してきました。水も資源も少ない砂漠だからこそ、人間と動物は貴重な資源を賢く使い、お互いを頼り分け合う知恵を育んできました。人間が砂漠で資源を得るには、様々な条件を判断し、無制限な乱獲をせず、自然の状況に即して動くことが必要だと、縄田教授は話します。

縄田教授は「海外資源フィールドワーク」では、縄田教授が長年通い続けるスーダン東部、紅海沿岸の砂漠を訪れ、学生と興味(水資源、エネルギー)に合わせた現地での統合的な資源管理を検討しました。スーダンはイスラム社会でもあり、それぞれの民族の伝統も残る国です。人々は共通言語としてアラビア語を使いますが、各民族の言葉もありますが、各民族の言葉もありません。縄田研究室の学生はスーダンにある紅海大学の教員や学生と同行し、英語を介してコミュニケーションを図ります。イスラム教の伝統から、基本的に男性が女性の生活空間に入ることはできません。しかし今回は特別に、紅海大学の女性教員に同行してもらい、女子学生は料理や生活全般を一緒に体験したそうです。「さらに今、現地の若い

子供たちから発掘や宝探しが好きだつたという縄田教授、1年生のとき発掘調査隊の正式メンバーとしてエジプトに足を運び、地元の人との交流や体験を通して初めて「海外の人とコミュニケーションをとりたいたい」と話してみたいと思つたそうです。この経験が大きなきっかけとなり、中東・アフリカ地域、乾燥地帯に暮らす人々の多様な資源利用に関する研究に尽力してきました。

縄田教授は研究成果を現地の人々へ還元することを大切にしています。平成27年には研究成果を英語で発信したことも高く評価され、「第30回 大同生命地球研究奨励賞」を受賞しました。また、縄田教授にとってカラー写真を使うこともこだわりのひとつです。英語やアラビア語が堪能でない村の人たちにとつても、写真は言葉を超えた財産になるといいます。

縄田教授は「海外資源フィールドワーク」では、縄田教授が長年通い続けるスーダン東部、紅海沿岸の砂漠を訪れ、学生と興味(水資源、エネルギー)に合わせた現地での統合的な資源管理を検討しました。スーダンはイスラム社会でもあり、それぞれの民族の伝統も残る国です。人々は共通言語としてアラビア語を使いますが、各民族の言葉もありますが、各民族の言葉もありません。縄田研究室の学生はスーダンにある紅海大学の教員や学生と同行し、英語を介してコミュニケーションを図ります。イスラム教の伝統から、基本的に男性が女性の生活空間に入ることはできません。しかし今回は特別に、紅海大学の女性教員に同行してもらい、女子学生は料理や生活全般を一緒に体験したそうです。「さらに今、現地の若い



人たちは日本のアニメやゲームに注目しているのでもなつてきました。アニメの主題歌を一緒に歌ったり登場人物の話題で盛り上がりつつ、日本のアニメは新しいコミュニケーションツールとして良いです。ぜひフィールドワークを振り返る縄田教授。現地から暮らす人々や紅海大学、行政の方々の手厚いサポートの下、学生たちは有意義な時間を過ごせたようです。

「エネルギー生産体系とエネルギーへ依存する経済や生活のあり方が世界的に変わりつつある今、再生可能エネルギーも含めて各国の動向が注目されます。だからこそ、これから世に出る若い人たちは、未来を見据えて地域と地球を架橋する将来像を考えていくセンスを身につけていくてもらいたい」と、縄田教授は若者たちへあたたかいエールを送ります。

秋田大学国際資源学部 資源政策コースホームページ <http://www.gipc.akita-u.ac.jp/rpm/index.html>

僕らの課外活動

医学部室内合奏団



代表: 森重 はる香
(医学部 医学科 3年次)
所属人数: 67人
活動日時・場所:
毎週月・水・金 18:00~20:00
本道キャンパス サークル棟



室内合奏団について教えてください

私たち秋田大学医学部室内合奏団は総勢67名からなる弦楽合奏団です。よくオーケストラ部?と言われるのですが、オーケストラではトランペットなどの管楽器も含まれるのに対して、私たちは弦楽器、つまりヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラパスの4つの楽器だけで演奏を行っています。すべての楽器の音色が統一されているので、ヴァイオリンからコントラパスまで、なめらかな音のグラデーションを楽しめるのが魅力です。

室内合奏団の命名の由来については、創設から数十年たっしてしまっているのが定かではありません。しかし、室内楽という一般的なには1パートを1人が担当する2~10人の合奏形態のことで、創部当時はごく少人数でこじんまりと演奏を行っていたので、室内合奏団と命名したのではないかと思います。



団の雰囲気教えてください

幼い頃から楽器を弾いていた人だけではなく、大学から弦楽器を始めた部員も多いところがこの部活の特徴です。初心者だと、やはり

なかなか上手く弾けずに悩む時もあります。しかし、そんな時は、経験者の部員や指導者の先生がすぐにアドバイスをくれ、みんなで支えあいながら、定期演奏会を成功させたい!という一つの思いのもと練習に励んでいます。このように練習の時は真剣そのものですが、休憩になるとすぐにおしゃべりに夢中になり、ON・OFFを切り替えて、和気あいあいと活動しています。

医学部以外のメンバーもいます

医学部室内合奏団というと、医学部の学生だけしか所属していないというイメージを抱かれることが多いのですが、医学部にとどまらず、国際資源学部、教育文化学部、理工学部の学生も大勢います。過去には、秋田県立大学や国際教養大学の方もいたことがあります。色々な学部、大学の人と交流できる部活はなかなか無いので、この点も室内合奏団ならではの魅力です。

活動内容

○定期演奏会にむけて日々練習中です!

10月28日に秋田県児童会館 けやきシアターで行われる定期演奏会に向けて日々練習に励んでいます。今年は第25回と節目の年になります。クラシックだけでなく、ジブリやディズニーなどのポップスも弦楽風にアレンジして演奏します。普段、音楽を聴かない人でも楽しんでいただける演奏会だと思っております是非お越しください!

秋田大学医学部室内合奏団 第25回定期演奏会

- 日 時: 10月28日(日) 13時30分開場 14時開演
 - 場 所: 秋田児童会館 けやきシアター
 - 入場料: 500円
 - 演 目: ブルックグリーン組曲/G.Holst
ディヴェルティメント へ長調K.138/W.A.Mozart
シンブルシンフォニー /B.Britten
映画『もののけ姫』より アシタカせつ記
- ☎: 080-2822-1590 (御所野)

○スプリングコンサート・クリスマスコンサートを開催しています!

毎年、4月と12月に附属病院待合ホールにて、30分程度の無料コンサートを開催しております。聴きにきてくださる患者さんに感謝を込めて演奏しています。



○ミニコンサートを開催しています!

お菓子の郷ジローの店舗内で春と秋の2回、ショートプログラムの演奏をさせていただきます。他にも、ご依頼をいただいで外部で演奏させてもらう機会が年々増えてきており、嬉しい限りです。



演奏する曲の決め方

幹部学年(3年生)が中心となって曲決めを行っています。自分たちが演奏したい曲候補をあげ、指導者の先生のアドバイスをいただきながら選考していきます。

新入生・高校生へのメッセージ

室内合奏団では、学部・学科問わず多くの新入部員を募集しています!経験者はもちろん、楽器の貸し出しや、外部の先生による初心者レッスンもあるので、大学から弦楽器をはじめた部員もたくさんいます。どんな部活なのか気になったら、是非、演奏会や見学にいらして下さい! 部員一同お待ちしております。

僕らの課外活動 番外編 僕らの学生自主プロジェクト

「学生自主プロジェクト」事業は、目的の達成(課題の解決)に向けて複数の学生が協力しながら活動する課題解決能力の育成を目指した取り組みであり、いわゆるPBL(Project-Based Learning)と言われるものです。秋田大学では、学生自らが設定した課題の解決に向けて、自主的に考え活動するための支援活動を行っています。

電動ビークルプロジェクト



代表: 池田 慧
(理工学部システムデザイン学科 3年次)
所属人数: 5人
活動日時・場所:
毎週土・日曜日 10:00~17:00
理工学部2号館横ベンチャー棟



電動ビークルとは?

電動ビークルとは、ガソリンなどの燃料ではなく、電気力で動く自動車です。私たちが製作した電動ビークルは、ソーラーパネルによる発電だけでなく、ドライバーがペダルを漕ぐことによって発電機を回して電気を生み出しています。このように太陽の力と人の力が融合した地球にやさしいエコロジーな自動車です。

活動内容

私たちは、ワールドグリーンチャレンジという大会に出場するためのマシンを設計・製作しています。製作時は自分の思い通りに行くことは少なく、大抵何かしらの不具合が起きてしまいます。そこをいかに工夫して改善していくか考えるのが大変でした。

しかし、それらを乗り越え、レースで完成した自分たちのマシンが走っている姿を見たときはとても感慨深いものがあり、これこそモノづくりの魅力なのだと思います。

WGCソーラーカー&グリーンフリートラリーへの参加について

今年8月、大湯村ソーラースポーツラインで、ワールドグリーンチャレンジに参加しました。この大会は全長25kmのコースを3日間、25時間かけて走る耐久レースです。この夏は歴史的な猛暑が記録された中での大会で、更に密閉された灼熱のマシンの中でペダルを漕がないといけな



いため、車以上に人間も過酷なレースとなりました。

レースの内容としては、1日目は問題なく走行することができました。しかし、2日目、3日目でタイヤがパンクしてしまいましたが、リタイアすることなく計400kmを走りきることができました。

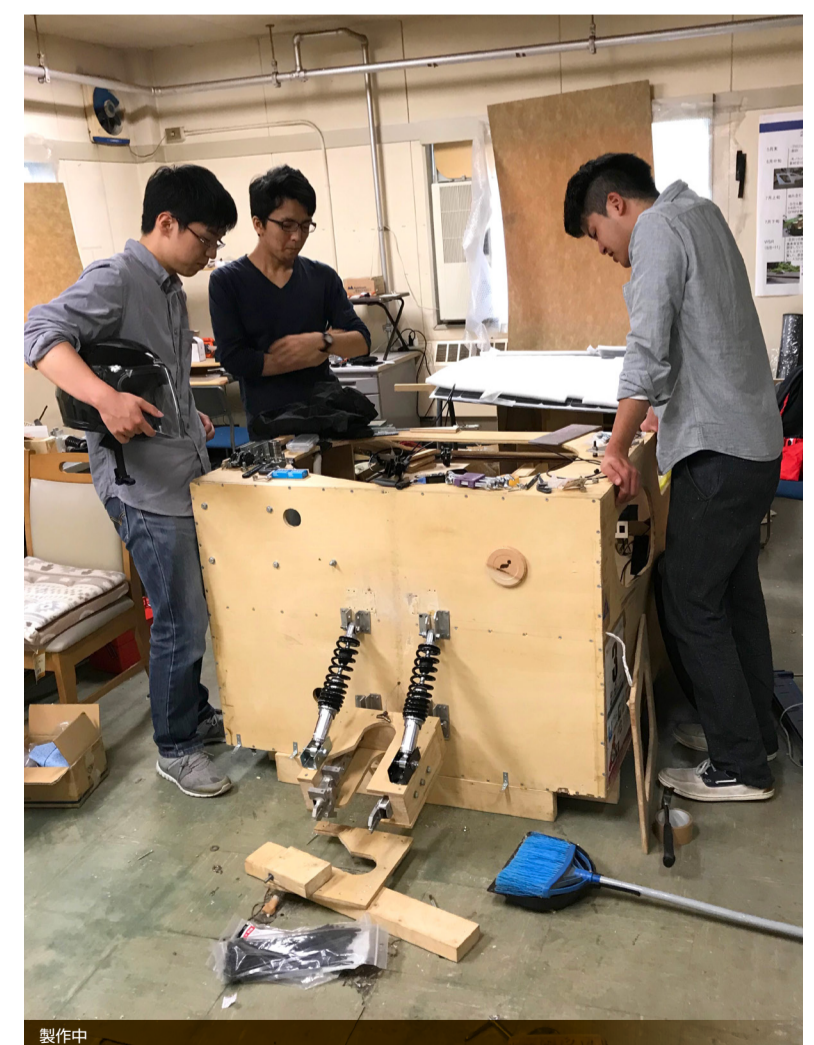


今後の展望

今後はさらにマシンを改良し、新車の製作を計画しています。ナンバーを取得して、実際に公道を走らせる計画も立てています。また、車のボディに秋田杉を使用し、秋田県を応援していけたらいいなと思っています。

高校生・新入生へのメッセージ

自動車作りはとて奥が深く、機械、電気に関係する技術はもちろんのこと、実践的な設計など、エンジニアとして普通の講義では学べないことをたくさん経験することができます。自動車好きや、そうじゃないけどモノづくりをしてみたいという人はぜひ、私たちと一緒にソーラーカーを作ってみませんか?



NEWS & TOPICS

ニュース&トピックス

2018.07. >>> 2018.08.

JULY オープンキャンパス2018

7月28日、手形・本道の両キャンパスでオープンキャンパス2018を開催しました。天候にも恵まれ、受付時間前には県内外の中学生、高校生及び保護者等で長蛇の列が出来上がり、当日は昨年を1割も上回る約3100人もの来場者が本学キャンパスを訪れました。

プログラムは学部ごとに様々な内容を用意。各学部の概要説明や学生たちが加わった研究室の紹介、模擬授業を行ったほか、職員による入



研究内容の紹介で盛り上がる高校生と学生ら
よさこいサークルのパフォーマンス

基金寄附者への体験聴講

秋田大学では、本学の教育研究を充実するために創設した「秋田大学みらい創造基金」の寄附者様に対して、本学の講義を聴講していただく「体験聴講」を実施しました。この体験聴講は、同基金へ一定額を寄附された個人又は法人様への謝意、特典の一つで、今回、寄附者様から申込みがあった6月15日及び7月13日の2日間にわたり行われたものです。

申込みされた丸水秋田中央水産株式会社様が聴講されたのは、本学1・2年次を対象とした教養教育科目の講義である「教養セミナー2（ジオバク学入門）」で、初回の6月15日は、本学で秋田県内観光地のPRポスターを作成した学生の成果発表リハール（リハール）ワークにご参加いただきました。同社からの要望により、社内において行わせていただいた7月13日の2回目の聴講で

は、学生が作成したPRポスターをプレゼンテーションする成果発表会を行いました。普段、学外で発表する機会がなかったPRポスターについて、緊張した面持ちながらもアピールしたいポイントなどを説明していました。

成果発表会に参加された同社の役員らから、PRポスターで使用しているフォントの書体や大きさ、写真の使用枚数及びレイアウトなどについて様々な改善点が指摘され、学生たちは自らの目標と普段からPRポスターを活用している目標との着眼点の違いから、自分たちが気付いていないPRポスターの視覚的効果などへの理解を深めていきました。

本学では今後も同基金における寄附金の活用状況や特典の周知などに努め、寄附拡大を図ってまいります。



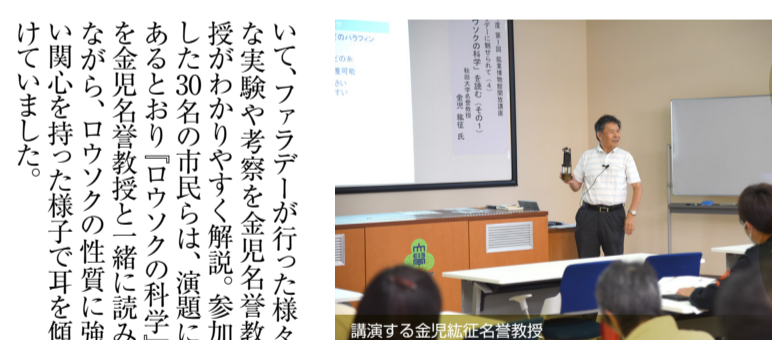
成果発表の様子

AUGUST

一般市民向け開放講座

8月2日、秋田大学大学院国際資源学研究所附属鉱業博物館以下、鉱業博物館は、平成30年度第1回鉱業博物館開放講座「フアラデー」を開催しました。この「フアラデー」を聴講した金尾絰征名誉教授が務めました。

今回の講演は、「フアラデー」に魅せられて「シリーズ」として平成25年から行われていたものの4回目。マイケル・フアラデーは電気分解の法則、電磁誘導の法則など、電気に関する様々な現象を発見したイギリス人科学者で、今回のテーマである「フアラデーの科学」は、フアラデーが行った子どものためのクリスマス講演をまとめた講義録として出版されました。講演では、ロウソクという身近な素材につ



講演する金尾絰征名誉教授

「ロウソクの科学」に関する講演は全2回で、8月9日に行われたフアラデーに魅せられて（5）「ロウソクの科学」を読む（その2）では、本講演の続きとして、水素、酸素、二酸化炭素の性質などについて調べ、最後に動力が排出した二酸化炭素を植物が吸収して自然が調和していることなどについて学びました。

開放講座は、生活の中の疑問を専門的見地から一般市民に向けて分かりやすく解説し、知識を深めてもらうことにも鉱業博物館をより身近に感じてもらうことを目的として、不定期で開催しています。

プラタミナ大学(インドネシア)と大学間協定を締結

8月16日、山本文雄学長が佐藤時幸副学長、大学院国際資源学研究所長等とともにインドネシア・ジャカルタのプラタミナ大学を訪問し、大学間学術協力協定を締結しました。プラタミナ大学では山本文雄学長とAkhmaloka学長が和やかな雰囲気の下、協定書にそれぞれ署名し、続いて行われた懇談ではプラタミナ大学のSoetjipto副学長（開発・パートナーシップ担当）、各

学部長及び各学科学長等も加わって、協定に基づく今後の交流について意見交換を行うとともに、キャンパス内の施設を見学しました。また、翌17日には、インドネシアの独立記念日を祝うプラタミナ大学の教職員を記念行事に参加し、交流を深めました。

プラタミナ大学は、2016年2月にプラタミナ財団により設置された私立大学で、将来的に世界水準の大学となることを目指し現在、積極的に

国際連携を図っています。今回の協定締結により、秋田大学の大学間国際交流協定校は、28か国・地域の56大学となり、インドネシアの大学との協定は、バンドン工科大学、ガジャマダ大学及びワラサケティ大学に続き4番目となります。今後、両大学における資源学分野を中心に、学生・教員の交流、研究協力、国際共同シンポジウムの開催等の交流が活発化されることが期待されます。



前列左から、佐藤副学長、山本文雄学長、Akhmaloka学長、Soetjipto副学長

子ども見学会

8月7日、「平成30年度秋田大学子ども見学会」が開催されました。このイベントは、本学に小学生及び保護者を招待し、キャンパス内の研究室、実験室及び博物館等で見学や実験を行い、夏休みの家族のふれあいを深めることにも、本学への関心を一層高めてもらうことを目的に開催しているもので今年度で14回目です。

イベントのオープニングでは、本学の山本文雄学長から挨拶があった後、学生サークル「Ecoラミア」から参加者を歓迎して、中南米の民族楽器のケーナやサンボニーヤを用いて「森のくまさん」や「ゴンドルは飛ぶくまさん」などが演奏されました。その後、事前申し込みでいたれた各コースの実施会場に分かれ、それぞれの実験の引率によりそれぞれの会場へ移動しました。今年度は各学部やセン



「パソコンでうわをつくらう」の様子



「医師・看護師養成セミナー」の様子

ターから、物理・天文・医療・防災など13のコースが用意され、参加した小学生や保護者は、普段触れることの少ない大学での講義や実験を楽しむみながらも、夏休みの思い出づくりや自由研究のヒントをつかおうと各コースの担当者の説明を熱心に聞き入って

いました。当日は220名余が参加し、キャンパス内は普段とは違った賑わいを見せていました。今後も引き続きこのイベントを開催し、本学の魅力や研究の楽しさを発信してまいります。

トップレベラスリート奨励金授与式

8月29日、平成30年度秋田大学トップレベラスリート奨励金授与式を行いました。この奨励金は、秋田大学みらい創造基金の事業として、国際大会での活躍が期待できるトップレベルのアスリートに対し、更なる競技力向上を支援するための制度として今年度新設したもので、医学部医学科5年次の広田有紀さんに第一号として授与されました。

授与式には、本学の山本文雄学長のほか、志立正理理事（教育・学生・地方創生広報企画担当）、尾野恭一医学部長も臨席して執り行われ、被表彰者に奨励金が授与されました。

山本文雄学長は挨拶で「今後是非、学業と競技活動の二刀流にて、医師国家試験合格



被表彰者挨拶

と、東京オリンピック出場を目指してほしい」と述べました。これを受けて被表彰者の広田有紀さんから「今後文武両道を目指し、常識という壁を乗り越えて医師と陸上選手の間立を目指していきたい」との挨拶がありました。

授与式には、本学の山本文雄学長のほか、志立正理理事（教育・学生・地方創生広報企画担当）、尾野恭一医学部長も臨席して執り行われ、被表彰者に奨励金が授与されました。

表紙は写真部

秋田大学
写真部
Akita Univ. Photography Club

今回の表紙写真は、手形キャンパスにある機械工場にて撮影したものです。機械実習などで使われる機械工場、設計図を真剣に見つめながら作業をすすめる学生の姿が目につきます。撮影にご協力いただいた藤田忠技術長、ありがとうございました。

広報課

- 撮影日：8/20(月)
- 撮影場所：秋田大学 機械工場
- 撮影者：理工学部 システムデザイン工学科3年 杉山達央さん

おいしい魚を世界の海から食卓へ

丸水秋田中央水産

代表取締役社長 鈴木 信夫

秋田市外旭川字 符合 28
TEL 018-869-5311 FAX 018-868-1931

丁酉会は、秋田大学病院の患者、職員及び学生への便宜供与に関する事業を行うとともに、医学研究の奨励助成を行い、患者等の利便と医学振興に寄与します。

病院での生活を、もっと便利に、快適に

一般財団法人 丁酉会

保険調剤 丁酉会薬局

秋田大学病院前

心を、つなごう。

わたしたちは、社会が必要なことは何かを考えて事業を通じて、未来のために、まちづくりや人財育成を行うことが大切であると考えます。



大和リース株式会社
秋田支店

秋田市御所野元町 1-1-1 ☎010-1414
Tel : 018-892-7152 Fax : 018-892-7153
www.daiwalease.co.jp

SKILL & HEART

「秋田」だからできる 先端のICTを

秋田の有能な人材を採用し、育成・活用することで地域活性化に貢献してまいります

株式会社テクノス秋田

代表取締役 相田 龍三
秋田県秋田市中通3丁目2番44号
秋田河北ビル5F

TEL 018-884-7090 FAX 018-884-7091
http://www.tks-akita.co.jp/

technos

イベント&講座・講習会

Event, Seminar, Workshops & Extension course

催し物

第47回渡邊杯・第27回新野杯争奪 全学駅伝競走大会

秋田大学体育会の企画・運営のもと、男子は全10区間(40.8Km)、女子は全6区間(14.4Km)のコースを走ります。

- 11月3日(土)
- 秋田県立中央公園周回コース
- 対象/どなたでも(高校生以上)
- 参加費
秋田大学学部生 500円
秋田大学院生・教職員 1,000円
学外一般参加者 1,500円
- ☎018-889-2255(学生支援・就職課)

教育文化学部天文台イベント

天文サイエンスカフェや大学教職員による天文講演会、45cm反射望遠鏡を使った夜間天体観測会を実施します。

- 11月3日(土)16:00~18:00
- 12月1日(土)16:30~18:30
- 1月5日(土)15:00~18:00
- 教育文化学部3号館3階301地学実験室ほか
- 対象/どなたでも
(夜間観測会は中学生以下は保護者同伴)
- 参加費/無料
- ☎018-889-2655(教育文化学部地学研究室)
- mouri@gipc.akita-u.ac.jp

子どもものづくり教室

科学に直接触れ、体験できる教育として、小中学生を対象としたものづくり体験型授業を展開しています。

- 第5回子どもものづくり教室
〈スバゲッティータワーを建てよう!〉
●11月18日(日)10:00~12:00
- 第6回子どもものづくり教室
〈バランスを考えてモビルづくり!〉
●12月16日(日)10:00~12:00
- ものづくり創造工学センター創造組立作業室
- 対象/小中学生20名(先着順)
- 参加費/無料
- ☎018-889-2806(ものづくり創造工学センター)
- pub@mono.akita-u.ac.jp

公開講座

緩和ケアセンター主催「ひだまり教室」

〈知ってますか?緩和ケア〉
緩和ケア認定看護師が、分かりやすく、緩和ケアについて説明いたします。

- 12月4日(火)11:00~12:00

がん相談支援センター主催「ひだまり教室」

〈在宅医療・在宅療養について〉
訪問診療専門医師、訪問看護師、ケアマネージャーが、在宅医療・在宅療養についてお話しします。

- 12月6日(木)14:00~15:00
- 医学部附属病院 外来棟1階院内図書室「ひだまり」
- 対象/どなたでも
- 参加費/無料
- ☎018-884-6039(医事課医療サービス室)

大学院理工学研究科 第2次学生募集



一般入試や社会人特別入試などの選抜方法があります。また、職業を有している学生のために長期履修制度を設けています。大学院説明会を実施しますので、詳細は秋田大学理工学研究科ホームページをご覧ください。

- 出願期間
平成30年12月3日(月)~12月7日(金)
- 【事前資格審査受付期間】
平成30年10月22日(月)~10月26日(金)
- 試験日
■博士前期課程(修士)
平成30年12月26日(水)、27日(木)
■博士後期課程(博士)
平成30年12月26日(水)
- ☎018-889-2313(入試課(理工担当))

秋田大学イルミネーション2018

今年も夜の学園街を明るく照らすイルミネーションと学生が作るプロジェクションマッピングのコラボレーションを予定しています。詳細は後日、秋田大学ホームページで公開します。



秋田大学みらい創造基金 ご協力をお願い申し上げます。

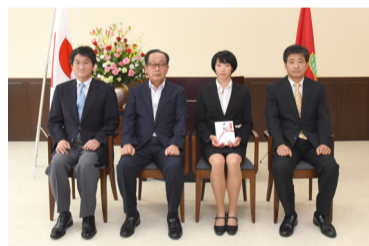
「秋田大学みらい創造基金」は、全学的な事業を支援する「一般基金」と、用途を特定した「特定基金」で構成され、現在、企業・団体や個人の皆様など多くの方々にご支援をいただいております。この基金は、教育・研究による社会への貢献という大学の使命を果たすための大きな支えとなっており、今後一層の拡充を図りながら、有効に活用させていただきます。

みらい創造基金による事業紹介



○学業奨励金 (一般基金)

学生の修学支援として、学業成績が優秀かつ人物優秀と認められる学生15名に対し、学業奨励金(100,000円/1名)を給付しました。



○トップレベルアスリート奨励金 (一般基金)

国際大会での活躍が期待できるトップレベルアスリートに対し、更なる競技力向上を支援するため、奨励金を給付しました。

○附属病院の環境整備(病院寄附金)

外来ホールに設置している車いすを増台しました。また、病院内の飲食スペースに、清掃可能な椅子を設置し、利用者の利便性向上を図りました。



○医学部の環境整備(医学部寄附金)

本道キャンパスの講義室に設置していたプロジェクターと、学生多目的ルームに設置していたシュレッダーを更新しました。



※その他の事業については、秋田大学ホームページで紹介しています。

- 〈ご寄附のお願い〉 ●個人の方：一口 1,000円
●法人の方：一口 10,000円

この基金の趣旨をご理解いただき、なにとぞ複数口のご協力をお願いいたします。また、継続的なご寄附もお待ちしております。寄附者様のご都合に合わせた寄附方法・金額の設定が可能ですので、詳細は基金事務室へお問い合わせください。

- 〈ご寄附の方法〉 ●振込によるご寄附 ●クレジットカードによるご寄附
●古本募金によるご寄附 ●遺贈によるご寄附

寄附のお申し込み、詳細につきましては、秋田大学公式ホームページをご覧ください。基金事務室までお問い合わせください。

〈古本募金のおお願い〉

読み終わった書籍(CD・DVD等を含む)を大学の提携業者が買い取り、その売却代金をご寄附いただく「古本募金」をぜひご利用ください。5冊以上から送料無料で指定の場所に集荷に伺います。ご希望の方は、下記にお電話いただくか、秋田大学ホームページからお申し込みください。

株式会社バリューブックス

☎0120-826-292(電話受付時間 10:00~21:00 日曜は17:00まで)
「秋田大学みらい創造基金「古本募金」の申込」とお伝えください。

〈寄附者ご芳名〉この基金の趣旨にご賛同、ご協力いただきました皆様へ、心より感謝申し上げます。今後とも秋田大学の教育・研究活動等に対し、格段のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

企業・団体等

- 秋田大学有志一同 様
- 医療法人鎌田循環器科内科クリニック 様
- 一般財団法人丁酉会 様
- 株式会社ナイス 様
- 能代電設工業株式会社 様
- 株式会社北都銀行 様
- 丸水秋田中央水産株式会社 様

個人

- 浅田 昌弘 様
- 市川 逸郎 様
- 伊藤 一弥 様
- 猪股 祥子 様
- 上村 英彦 様
- 大高 麻衣子 様
- 大平 芳久 様
- 城戸崎 律子 様
- 佐々木 清 様
- 佐藤 美起雄 様
- 佐藤 佑樹 様
- 三戸 学 様
- 鈴木 邦彦 様
- 関 信輔 様
- 高崎 康志 様
- 高橋 紀夫 様
- 長澤 昭司 様
- 成田 正英 様
- 西山 広明 様
- 政田 眞弥 様
- 谷口 久枝 様

他 匿名希望 13名様(延べ数) (平成30年6月~8月末入金分 五十音順)

〈お申し込み・お問い合わせ先〉秋田大学みらい創造基金事務室 〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号 ☎018-889-3266(総務企画課内) kikin@jimu.akita-u.ac.jp
秋田大学みらい創造基金は秋田大学公式ホームページからお申し込みいただけます。(http://www.akita-u.ac.jp/honbu/ed_fund/index.html)

秋田大学 みらい 検索